

①当教室では染料を主に使用し、顔料は【白・蛍光色・黒など】濃い色を作る際に使用しています。
 (ROCAcandleの淡い色合いは染料の混合の方が出しやすいから)
 ただし、色褪せなど気になる場合は顔料を中心に使っていきます。
 ※ドットキャンドルなどを**濃い色で作る場合はドットも周りも両方を顔料で作らないと色移りするため注意!**

1-3 着色について

ワックス自体の色は白や透明のものが多く、市販されている色付きのキャンドルは顔料が染料によって着色されていることとなります。ここでは顔料と染料の特徴とメリット・デメリットを勉強していきます。

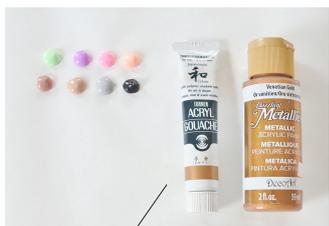
水や油に完全に溶け混む「染料」、微細な粒子が溶け込まずに混ざり合う「顔料」



- ◆染料のメリット・・・ワックスに完全に溶け混む。
 着色による芯の目詰まりが起きにくいので、濃い色合いのキャンドルが作れる。
 デメリット・・・太陽の光や蛍光灯の光が原因で色落ち(色褪せ)や色移りがおきる。
- ◆顔料のメリット・・・発色が良く少しの顔料で濃い色が付く。日光や蛍光灯による色褪せがあまり無い。
 デメリット・・・ワックスに完全に溶けず、微細な粒子が混ざって色が付いているように見えるだけなので、顔料を大量に使ったキャンドルを作った場合、ワックスだけが燃焼し一緒に吸い上げられた顔料の粒子が芯に溜まっていく。
 最終的にはワックスの吸い上げを邪魔し、炎が消える原因となる。(芯の目詰まり)

②クレヨンなどが顔料です。
 キャンドル用の顔料はあらかじめ濃く色を付けたものとパラフィンを混ぜてフレーク状にしてある為クレヨンより混ざりやすい

③染料と顔料は混ぜて使用しても構わない



←液体ろう(装飾用)
 ワックスに入れずに、出来上がったキャンドルの側面に装飾するためのもの。
 アクリル絵具でも良いが、キャンドル用に開発されたものなので、燃え残りがより少ない。
 (ROCAcandleでは文字刻印に使用 ※MASTERコース)

④アクリル絵具(おススメ:アクリルガッシュ <http://www.turner.co.jp/art/gouache/>)
 BESICのGOLDイニシャルキャンドル、やMASTERのDRIPに使用。

炎と直接関係のない蠟の下部に主に使用しますが、GOLDイニシャルキャンドルなど側面に使用した場合でも燃えることはなく、塗ったところがペラッと剥がれるイメージで溶けた液体蠟の中に浮きます。
 剥がれた塗料は念のため必ずピンセット等で取り除くことを伝えてください。